

新歓必勝ガイド2021

2021年3月11日(木)

一般社団法人 全日本アカペラ連盟

①新歓活動におけるリサーチ

まずは、自分たちが置かれている環境を理解するところから始め、今後の新歓活動における目標を立てていくことが重要となる。また、いつ対面活動が再開してもいよいよ、オンライン上と従来のやり方の2通りの新歓計画を立てておくことが重要となる。

- 大学のホームページやWEBマガジン(学内新聞)、合同説明会、大学の公式SNS、新規で発行される媒体などでサークルの紹介ページにわかりやすくサークルのことが記載されているかを確認。わからないことや変更点は電話連絡や窓口で確認。
- 大学周辺の駅、地域の掲示板などのポスターを貼れる場所を調査する。
- 学校側の活動制限と、新歓期を迎えるにあたり校内で活動できるかを改めて確認。チラシの配布もできるか併せて確認するとより良い。
- オンラインでの年間スケジュールと従来通りの年間スケジュール両方とも作成しておく。
- 従来のサークルイベントやハモネブ、大会出場履歴の整理をすることで、サークルのアピールポイントを再確認する。
- サークル員へ内部アンケートを実施する。サークルに入った理由やインターネット環境など、今後の運営に参考になりそうなことや事前準備しておきたいことを予めリサーチする。

②サークルを多くの新入生に知ってもらう

とにかく多くの新入生にサークルの存在や名前を知ってもらうことを目標に、できるだけ多くの新入生に声をかける。

- Twitterで、「#春から〇〇で新入生」のようなハッシュタグを検索。コメントやDMで連絡を取ってコミュニケーションを図る。この作業を多く繰り返すことが最も重要な作業となる。
- Twitterで1日2回以上ツイートを行いサークル活動が活発であることをアピールする(多ければ多いほど良い)。新歓情報や過去の動画紹介はもちろんだこと、サークルとは関係ないことをツイートしたりすることも効果的。
- Twitterで毎朝「おはようございます」とツイートをする。これを行うことによって運営アカウントのアクティブフォロワーを確認することができる。
- 流れてほしくない情報はInstagramに載せず、情報を保存しておく。

③興味を持った新入生に緩いアプローチ

アカペラサークルのことは無理に宣伝せず、まずは大学の先輩として向き合うことを徹底する。新入生が入りたてで困っていることなどを1つずつ解決していくことで自然と信頼関係を構築することが重要となる。

- TwitterでInstagramやYouTubeを宣伝することで、サークル員それぞれの人となりやサークルの雰囲気を知ってもらう。Instagramにはサークル員の自己紹介動画(リールなど)を投稿するのも効果的。
- 連絡が繋がった新入生に対して、LINEの連絡先を聞き、LINE上では重要な連絡を主に送る。
- インスタグラムやYouTubeで新入生とコミュニケーションを取って新入生の悩み相談や履修相談をする。
- 新入生にコミュニケーションを取るために、各種SNSのアカウントを作ってもらおう。

★重要な連絡はLINEで！軽いコミュニケーションはSNSで！

④興味を持った新入生に強いアプローチ

実際にコミュニケーションを取れるようになった新入生を仮入部扱いとして迎える。その中でより仲を深めることで、強固な信頼関係を築き上げる。
※ここでもアカペラサークルへの入会を無理に進めない方がよい。サークルの紹介は1日1本のアカペラ動画紹介程度におさめる。

- ZOOMで新入生と交流会を行う。最初は自己紹介や趣味を聞いてお互いを理解するところから始め、雑談ができる状態を持って行くことが大事。
- 大学生生活相談会を行い、地域の便利なお店や使った方がいい学内のサービスなどを紹介することで、学校生活に早く慣れってもらうことを心がける。
- 学部別履修相談会を開催。それぞれの学部の先輩がサークルに所属していることをアピールし、新入生に安心感を与える。また、コロナ禍でどのような授業を行っていたか情報として共有しておく。
- アカペラ以外のレクリエーション会を行うことで、新入生と仲良くなれる。
- 仮入会用のLINEグループまたは、Twitterの内向き用アカウントで1日1本アカペラ動画を紹介する。
- 新入生に見せるために先輩たちでリモートアカペラ動画を作る。難しい場合は、ワンコーラス・サビだけの動画でも十分である。

⑤すぐにアカペラ体験をしてもらう

新入生に対してなるべく間をあげないようにして本入会の手続きを行い、すぐにリモートアカペラ等のアカペラ体験をしてもらう。また、アカペラに対してのハードルを極限まで下げる環境づくりや雰囲気作りをして、新入生が入り込むやすいように場を整える。

- 入会手続きと同時に新人バンドエントリーも行い、新入生の練習しやすい日程や曜日を確認することでグループ構成の参考にする。
- 新入生に紹介したりリモートアカペラ動画の各パートに追加で入ってもらう形でアカペラに参加してもらう。
- リモートアカペラに用いる録音媒体(アプリ)をすぐに紹介できる準備をする。(例) GarageBand、Cubase、iMovie、Adobe Premiere Pro など
- 練習はZOOMなどでを行い、基礎練習や音とりのアドバイスを確認する。
- 練習だけでなくレクリエーションの日や座談会の日を設けてアイスブレイクを行う。

⑥継続参加してもらうためのアプローチ

サークル内の活動でも、とにかく間をあげないことを心がける。参加人数が仮に少なくても定期的な全体会やミーティングを行うことでコミュニケーションの機会を増やしていくことができるので、飽きない環境を作ることができる。

- 従来通りの活動のスタンスを壊すことはせず、オンラインで開催できるイベントは全てオンラインに置き換えて活動を行う。【例】全体会・サークルライブ・学祭・合宿(合宿で行われているレクリエーションなど)
- 新人バンドは新入生だけでなく先輩も混ざった形のグループ構成にするとよい。
- なるべく早くグループを作り、それぞれのグループで交流会を開く。
- 楽譜はワンコーラス・サビだけなど短い尺のものを用意し、なるべく簡単に完成するように準備をする。
- 新人バンドの形式は出来る限り繰り返す。新入生それぞれが楽しめる場を継続的に提供することができる。
- 1ヶ月以内にリモートアカペラ作品を完成させるスケジュールリングを行う。
- 作品が完成したら、TwitterなどSNSに公開することせず、ZOOMの画面共有などを用い、サークル内のみでの観賞会を行う。
- アカペラ動画観賞会を行う。歴代のサークルのグループなどを紹介することで、よりサークルのことを知ってもらうことが可能となる。また、サークルとは関係ない有名グループの動画も一緒に見ることで、さらなるアカペラの魅力を伝える機会を増やすことができる。

はじめに

新型コロナウイルスの流行により、新歓活動もまた新たな様式の確立を余儀なくされた。新年度を迎えるにあたり、一般社団法人全日本アカペラ連盟(以下AJAA)では前回の反省を踏まえて様々なサークルや有識者へのリサーチと2021年2月12日開催「アカペラサークルの新歓について考える会」、2021年3月3日開催「アカペラサークルのSNSについて考える会」、2021年3月4日開催「アカペラサークルのオンライン運営について考える会」を行い、多くの新入生を迎えるための新歓必勝ガイド2021を作成した。また、本年は前回の新歓でサークルを選びきれなかった新2年生も対象となるので獲得できるチャンス。サークル総力を上げてチャンスをモノにするヒントとしてご利用ください。

オンラインツールの特徴と活用方法

[SNS 共通事項]

- サークル名の確認
サークル名に対しての『正式名称』『略称』『カタカナ表記』『ひらがな表記』『英語表記』『間違えられやすい』表記を確認する。
【例】das Lied(正式名・アルファベット表記)・ダスリ(略称)・ダスリート(カタカナ表記)・だすりーと(ひらがな表記)・ダスリード(間違えられやすい表記)
これらすべての表記をハッシュタグ化したり、詳細欄に紛れ込ませたりすると検索にひっきりやすくなる。
- 使えそうなハッシュタグをリストアップして、サークル員に共有しておく。
ハッシュタグは他でも多く使われていて、関連性の高いもの(アカペラ関連)を選ぶ。
【例】#春から〇〇 #春から〇〇 #アカペラ #正式名称 #略称 #カタカナ表記 #ひらがな表記 #アルファベット表記 #間違えられやすい
⇒上記の内容を準備しておくことで一発でヒットするような投稿内容、題名、タグをどのSNSでも有効活用することができる。
※個人情報の取り扱いには注意！！

[LINE] 重要な連絡

- 基本的な情報交換ツール。重要な情報の連絡は仮入会グループラインを作成して行う。
- 事前準備しておきたいこと
□仮入会グループラインを作成しておく。
□オープンチャットなど、LINEに備わっている機能の操作方法を覚えておく。

[Twitter] 情報共有

- 情報更新がしやすく、ユーザーが多いので、新入生とのつながりが最も期待できるSNS。
情報が流れやすいのでアーカイブには不向き。
事前準備しておきたいこと
□サークルの持っているアカウントを整理
新歓期やライブ用アカウントなど乱立していることが多いが、シンプルにまとめることが重要。「外向き用アカウント」と「内向き用アカウント」に整理を行うことを推奨する。
『外向き用アカウント』は、サークルが外部へ向けて情報を発信する公式アカウント。ライブ告知・バンド告知・情報の告知等を行う。
『内向き用アカウント』は、サークル員向けの情報を発信する内部用アカウント。外部大会の応募要項やオスメのアカペラ動画など、グループLINEに流すほど重要ではないが周知しておきたいアカペラ関連情報・新入生との活動動画や写真などを投稿して感想交流を行うなどの用途で利用する。鍵アカウントにして良い。AJAAの公式ツイッターを参考にしよう。

[YouTube] 動画

- 情報(動画)の保管、公開、アーカイブに長けている。
YouTube利用者には、Twitterユーザーとは違い、自宅やカフェなど落ち着いた場所での時間のある時に視聴することが多い。新入生に動画でサークルの魅力を伝えることが可能となり、サークル以外のアカペラ動画も見ってもらうことでさらにアカペラの魅力を知ってもらう機会が増える。
事前準備しておきたいこと
□すべての各動画・チャンネルの説明欄に、『サークルの説明』『HP・Twitter・Instagram・TikTokのリンク』『ハッシュタグ』『連絡窓口』をしっかり記載しておく。
□すべての動画のタイトルに『大学名』と『サークル名(正式名)』を記載するとより検索にひっきりやす。説明欄にハッシュタグは10個~15個程度書き込む。検索した人が、ストレスなく動画にたどり着くようにしておく。

[Clubhouse] 雑談

- 気軽にルームを立てやすく、お話するだけでなく聞き専としても利用できる。
「〇〇アカペラサークル△△新歓部屋！他アカペラ大歓迎！！」のような名前でもルームを立ち上げることにより、サークル内の縦のつながりも深めつつ早い段階で大学間や世代間を超えた新たなつながりを作ることができる。また、内部だけのグロースドナルームを作ることでもできる。時間にとらわれずゆっくりコミュニケーションを取れる場所として最適なのがこのアプリの特徴。
Android未対応。アカウント作成には招待が必要でまだまだユーザーが少ないという現状がある。
準備しておきたいこと
□サークル内で招待を回して、なるべく多くの人がClubhouseにログインできるようにする。
□Clubhouse内のアカペラ関係のユーザーをたくさんフォローする。
□Clubhouseの操作方法と各種機能を確認しておく。

[Slack] 重要な連絡

- 話題ごとにチャンネルを作成して、コミュニケーションが取れるツール。グループワークに適している。
事前準備しておきたいこと
□SLACKの使い方を覚えておく。

[Instagram] 写真・文庫

- サークルの写真を掲載するなどの簡易的なアーカイブに向いている(ストーリーのハイライト機能など)、ユーザーが多く、ライブ配信を簡単に行うことができ、ストーリー機能が充実している(質問、アンケートなど)。特に、インスタライブ配信は、入るかどうか悩んでいる層(顔出しに抵抗がある層)とコメントなどでコミュニケーションを取ることが可能となるので、新歓においては使い勝手が非常に良い。
バズりにくいのがデメリット。
事前準備しておきたいこと
□活動写真や思い出の写真をたくさん投稿しておく。(活動の雰囲気やわかりやすい)
□投稿やプロフィールにハッシュタグをつける(10個以上)。
□サークル員個人アカウントも同様のハッシュタグをつけて投稿しておく。
□インスタライブのコラボ配信やストーリー、ハイライト(質問・アンケート)の使い方を覚えておく。

[ZOOM] 全体会議

- 大人数で顔を見て話したり、ブレイクアウトルームを作ることでも少人数でもコミュニケーションが取ることが可能なツール。画面共有も可能。
話し合いが堅くなりやすいのがデメリット。
準備しておきたいこと
□サークル員のインターネット環境を予めアンケート調査して確認しておく。
□ZOOMの操作方法を確認しておく。
□可能であれば、使用時間が無制限になるプロプランを申し込んでおく。※対応している大学であれば、学校から個人に配られるメールアドレスでアカウントを登録すると無料で無制限のプランを使用することができる。

[TikTok] 飛び道具

- バズりやすく、若者(特に中高生)のユーザーが多い。
準備しておきたいこと
□YouTubeにある過去の動画や、サークル所属バンドが歌っている動画を用意する。
□サークルのアカウントのプロフィールや投稿動画など、使用できる箇所には全てハッシュタグを用いる。イチオシのハッシュタグは画像に埋め込む。
□なるべく多くのサークル員で同じハッシュタグをつけた動画を短時間で複数回投稿(動画の内容はサークルに関係ないものでも、タグが同じであることが重要)することで、ハッシュタグがランクインする可能性が高く、多くの利用者がそのハッシュタグを使ってくれるので知名度UPにつながりやすい。

作成協力

石岡颯太郎(立教大学元むらさき2020年代表)
石原勇輔(立教大学元むらさき2020年幹事)
加藤愛希実(東京立大学das Lied18期)
草野立英(東京大学Lavoco新歓代表)

